

意見交換会の現状と参加者の主な意見

輸入食品の安全確保及び残留農薬等のポジティブリスト制度の導入についての意見交換会について

(1) 意見交換会の構成

リスクコミュニケーションの説明(10分)

輸入食品の安全確保について(35～45分)

残留農薬等のポジティブリスト制度の導入について(35～45分)

休憩(10分)

パネルディスカッション及び意見交換(90～120分)

・パネリストは各開催地の道府県内の消費者代表1名、生産者または食品関係事業者1名、地方行政関係者1～2名に参加をしていただいた。各会場には食品安全委員会、農林水産省にもパネリストとして出席いただいた。

・コーディネーターは千葉会場のみ外部の有識者に依頼した。

(2) 参加者の構成

(申込み段階の7回分の合計より)

消費者	食品等事業者	マスコミ関係	行政関係者	その他
13.2 %	45.4 %	0.5 %	30.2 %	10.7 %

・食品等事業者が多いのは残留農薬等のポジティブリスト制度に関心が高かったためと考えられる。

(3) 参加目的

「本日の「食品に関するリスクコミュニケーション」に参加された目的は次のどれですか。」(6～1月開催の6回分のデータより:複数回答)

1	関係省庁の食品安全行政の取組の内容を知るため	293 (31.5%)
2	リスクコミュニケーションの取組について知るため	260 (27.9%)
3	輸入食品の安全性についての知識を深めるため	335 (36.0%)
4	残留農薬等のポジティブリスト制度についての知識を深めるため	727 (78.1%)
5	常日頃から抱えている食品の安全性に係る意見を行政に表明するため	31 (3.3%)
6	その他	15 (1.6%)

・残留農薬等のポジティブリスト制度の勉強目的という理由を挙げた人が4分の3を占めている。

(4) 参加者の理解度・満足度

①「演者からの説明についてお伺いします。その説明内容について、十分に理解することができましたか。」

できた	164	(17.6%)
おおむねできた	652	(70.0%)
あまりできなかった	101	(10.9%)
できなかった	4	(0.4%)

・「できた」「おおむねできた」で87.6%を占め、大半の参加者には理解されたことがわかる。できなかった方の理由としては用語などが理解しにくいという意見が多かった。

②「本日のリスクコミュニケーションについてお尋ねします。意見交換は分かりやすく、議論の内容等について理解できましたか。」

できた	122	(13.1%)
おおむねできた	600	(64.5%)
あまりできなかった	121	(13.0%)
できなかった	9	(1.0%)

・後半のパネルディスカッション及び意見交換の部分の理解度を当質問であるが、約77.6%の参加者が「できた」「おおむねできた」と回答している。

③「本日のリスクコミュニケーションの内容についてお尋ねします。満足できましたか。」

できた	62	(6.7%)
おおむねできた	547	(58.8%)
あまりできなかった	212	(22.8%)
できなかった	19	(2.0%)

・約65%の方がおおむね満足している一方、約2割の方が「あまりできなかった」「できなかった」と回答している。理由としては「説明が一方的で意見交換になっていない」を57名、「論点がぼやけるなど意見交換のすすめ方に問題がある」を81名が挙げている。

(※参加者の立場別の理解度等のデータは別紙2参照)

(5) 参加前後の理解度の変化

① 輸入食品の安全対策について

参加前	知っていた	688名	73.9%
	知らなかった	188名	20.2%
参加後	理解が深まった	557名	59.8%
	変化なかった	297名	31.9%
	わからなくなった	12名	1.3%

②ポジティブリスト制度の内容について

参加前	知っていた	634名	68.1%
	知らなかった	248名	26.6%
参加後	理解が深まった	536名	57.6%
	変化なかった	299名	32.1%
	わからなくなった	28名	3.0%

・輸入食品の安全対策について、及びポジティブリスト制度について、両方とも約6割の参加者が、参加後に理解が深まったと回答していることから、開催の成果がみられる一方、参加して安心感が高まったとの回答は、変化がなかったという回答よりも少ない数にとどまっている。（※別紙3参照）

(6) 記述された意見について

（※主な意見の一覧（抜粋）は別紙4参照）

・テーマとしてポジティブリスト制度と輸入食品の安全確保を取り上げたことについて、内容が盛りだくさんになったため、テーマを1つに絞るべきという意見もあった。時間配分については意見交換の時間が短かったというものが多かった。

・同じ説明を聴いても参加者によって、難しいという意見と、反対に易しすぎるという意見があった。説明内容及び資料については、特に専門知識のない人にもわかるように、できるだけ平易にしているため、消費者の立場からの参加者からはわかりやすいという意見が多かったが、食品等事業者などからはもっと詳しい内容が知りたかったという意見が多かった。

・消費者、事業者、生産者を分けて開催すべきという意見がある一方、様々な立場の方が一同に参加したため、いろんな意見が聞けてよかったという感想もあった。